

「生産性革命推進戦略」（概要）

（2017年11月24日 自民党経済構造改革に関する特命委員会・幹事長 新藤義孝）

破壊的イノベーションと劇的な生産性向上による「生産性革命」の実現

1. 第4次産業革命の社会実装

- 自動走行システムの世界最速実装
- ICTを活用した遠隔診療等の推進
- 自立支援、介護ロボット・センサーの活用促進
- 準天頂衛星を活用したG空間社会の実現

2. 中小企業の実産性革命・地域経済の支援

- IoT.ロボット導入支援策の拡充
- クラウド型ITツール導入支援プラットフォームの整備
- 事業承継税制の抜本拡充
- 「地域未来牽引企業」への支援

自動走行の実証実験



2017年7月7日 石垣島
無人運転バス走行実験に試乗

3. 新たなチャレンジを生み出す仕組みづくり

- サンドボックス型特区制度の創設（地域型とプロジェクト型）
- 近未来技術・社会実装実現本部の設置
- ベンチャー企業の支援、異能vation等の人材育成



2013年3月1日 首相官邸
総合科学技術会議にて、介護支援ロボットHALを試着

4. イノベーション促進基盤の抜本的強化

- 研究開発投資の増大と「Society5.0」の基盤整備
- アワード型研究開発制度の導入
- 国際技術標準戦略の司令塔（政府CSO）を設置

5. 成長を支える基礎づくり

- 企業収益を賃上げや設備投資に振り向ける税制等の対策
- 企業間のデータ連携の促進（Connected Industries）
- マイナンバーカードによる地域経済応援ポイント

地方創生 主な基本目標・KPI(2020年目標) 東京圏への転出超過数(2016年)

(自民党 地方創生実行統合本部・筆頭本部長代理 新藤義孝)

①地方に「しごと」をつくる

- ・若者雇用創出数(地方)
5年間で30万人
→9.8万人創出(2015年)
- ・女性(25～44歳)の就業率77%
69.5%(2013年)
→72.7%(2016年)

②地方への新しい「ひと」の流れをつくる

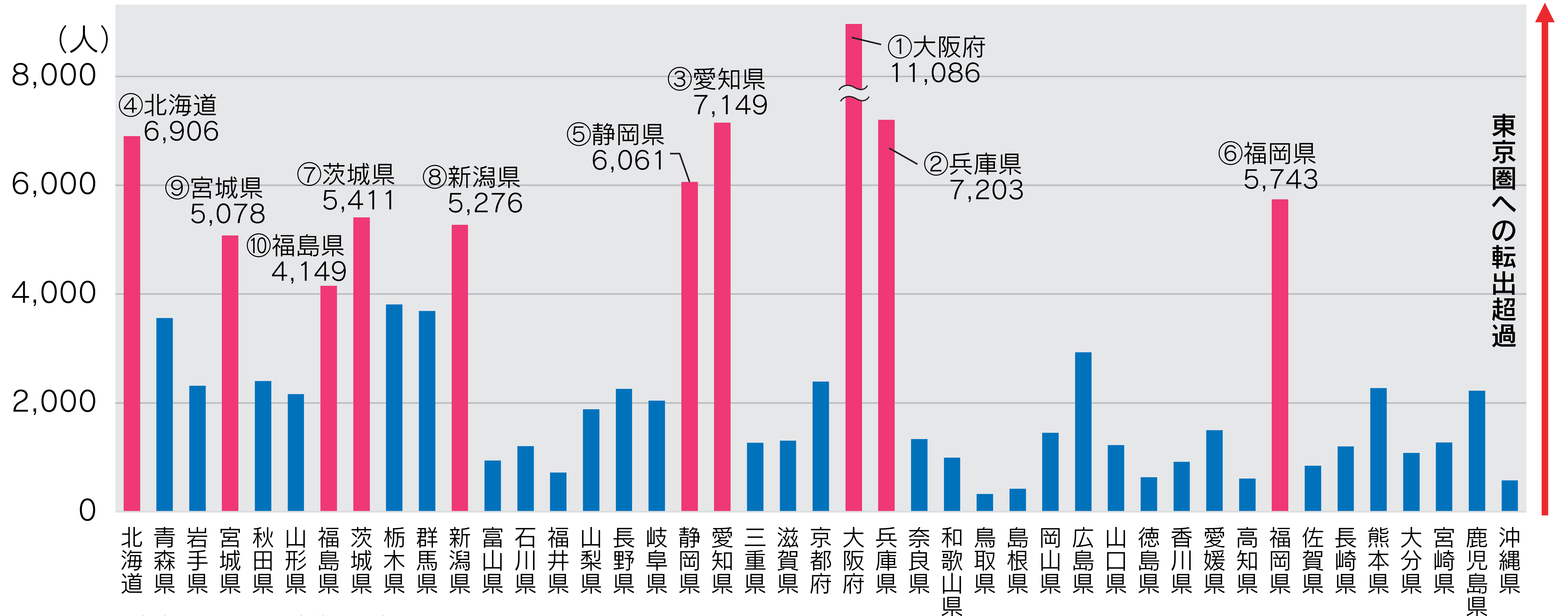
- ・地方・東京圏の転出入均衡
- 東京圏への年間転入超過
10万人(2013年)
→12万人(2016年)

③結婚・子育ての希望実現

- ・第1子出産前後の女性継続就業率55%
38.0%(2010年)
→53.1%(2015年)
- ・週労働時間60時間以上の雇用者割合 5%に低減
8.8%(2013年)
→7.7%(2016年)

④「まち」をつくる

- ・立地適正化計画作成市町村数150都市
4都市(2016年9月末)
→112都市(2017年7月末)
- ・「小さな拠点」等の地域運営組織形成数3,000団体
1,656団体(2014年)
→3,071団体(2016年)



(注) 〇は、上位10道府県

新国立競技場の炬火台等の設置

2017年11月14日 関係閣僚会議にて決定

☆旧国立競技場に設置されていた記念作品等全25作品については、レガシーとして新国立競技場に設置



米国 ワシントン・アーリントン墓地
J・F ケネディ大統領の墓地



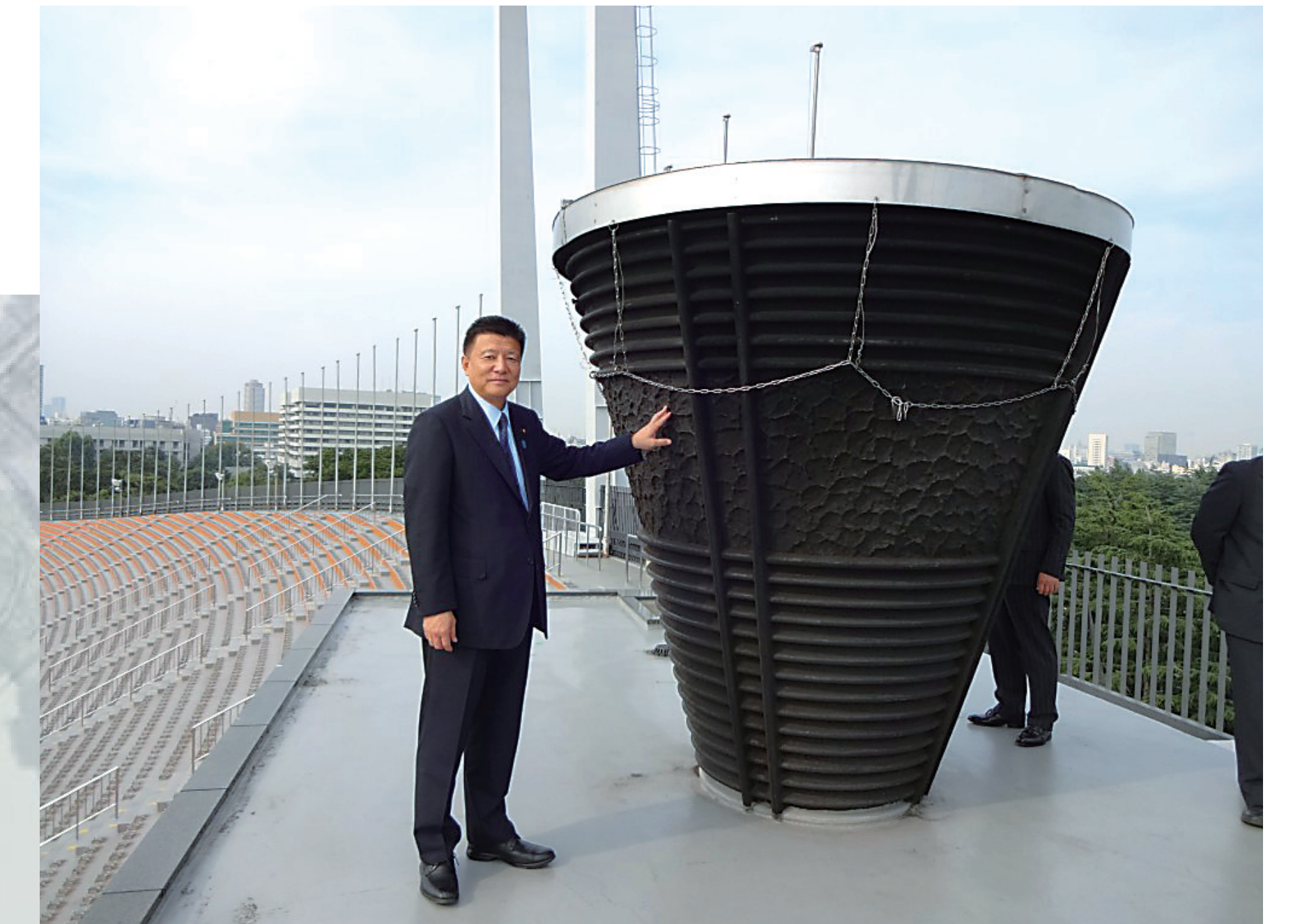
③ ギリシャの女神像



① 炬火台



② 野見宿禰像

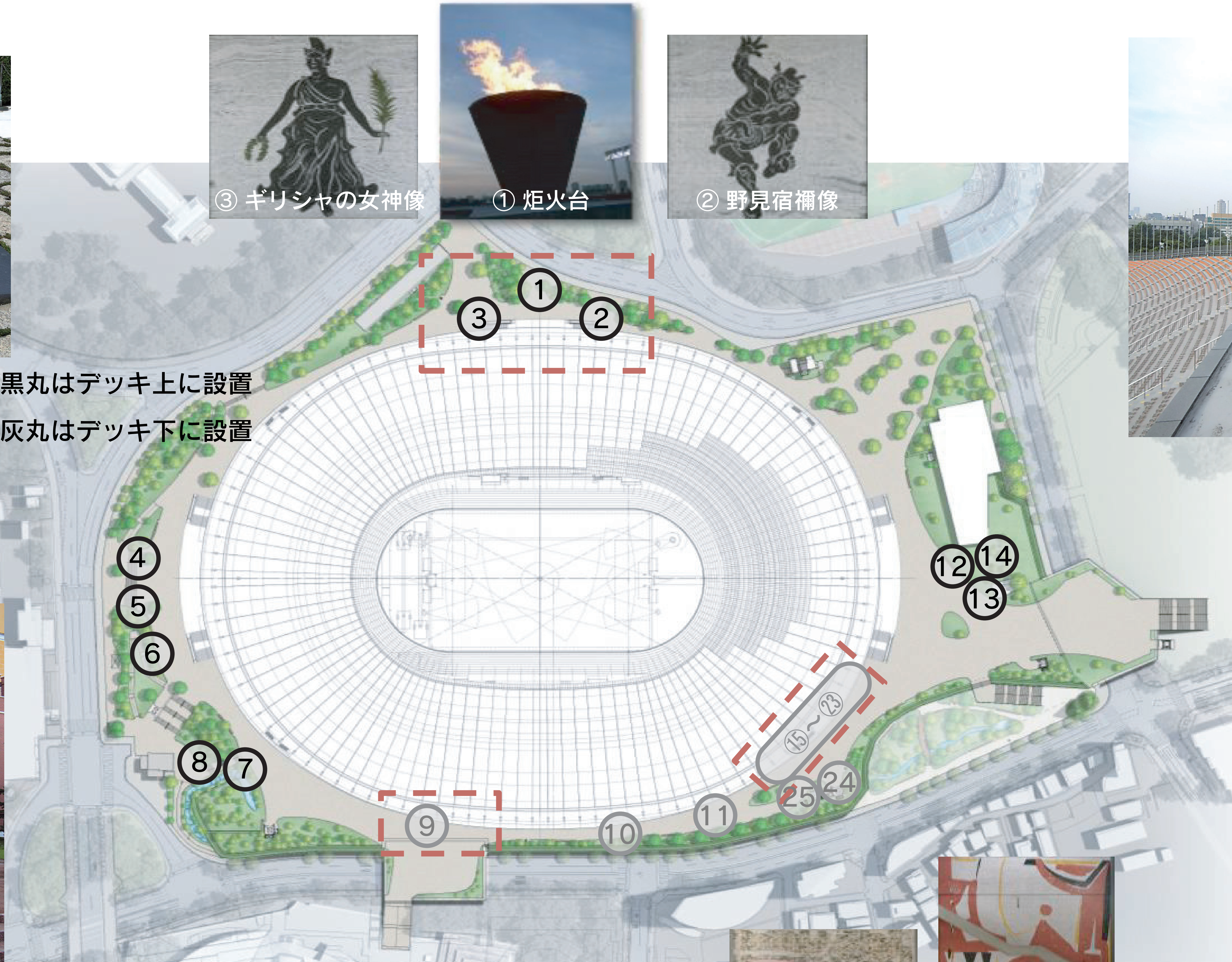


旧国立競技場の炬火台
(2014年 解体直前)



ロシア モスクワ・クレムリン
無名戦士の墓

○ 黒丸はデッキ上に設置
○ 灰丸はデッキ下に設置



⑨ 優勝者銘盤



⑩ 優勝者銘盤



⑪ 優勝者銘盤

※優勝者銘盤（デッキ下に設置）

- ⑨ 東京オリンピック大会
- ⑩ 1991年第3回世界陸上競技選手権大会
- ⑪ 1967年ユニバーシアード東京大会



⑮ 勝利の場



⑯ 友愛



⑳ 躍進



㉑ よろこび



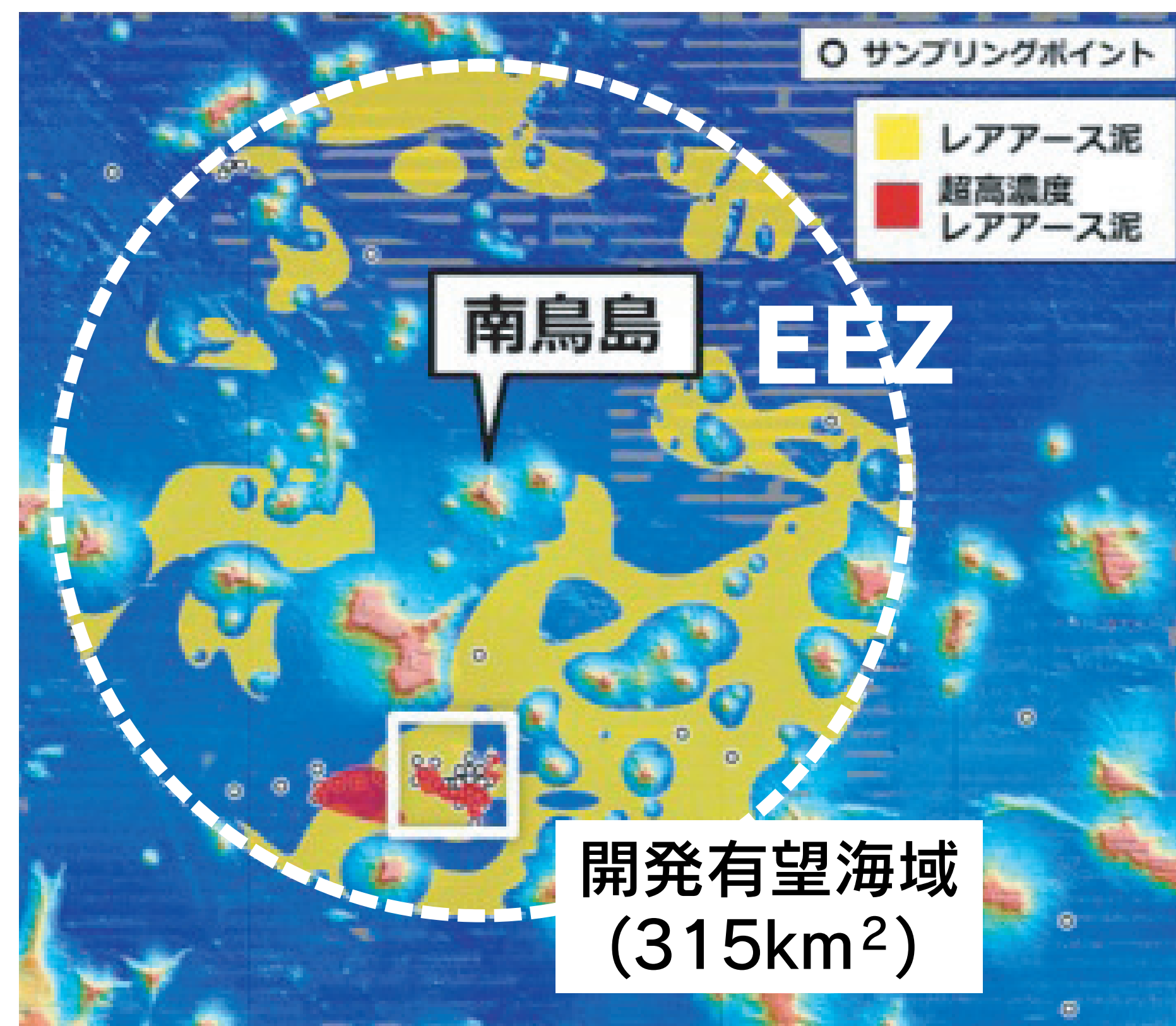
ボスニアヘルツェゴビナ
サラエボの永遠の炎
冬期五輪の聖火から採火

平成29年11月27日 衆議院予算委員会 新藤義孝(自民党) パネル③縮小
出典：(独)日本スポーツ振興センター資料より — 新藤義孝作成 —

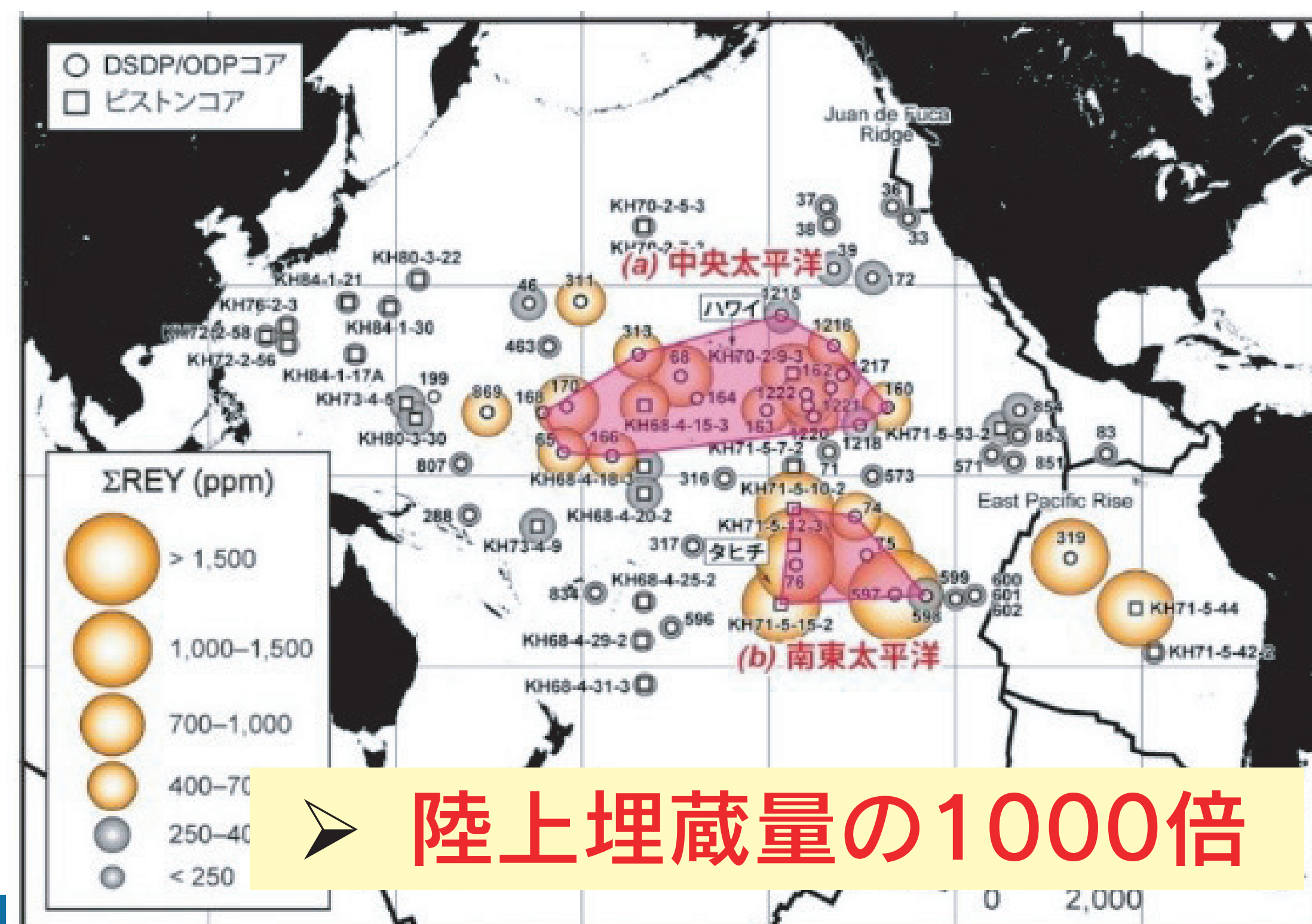
画期的な国産資源「南鳥島レアアース泥」

(資源確保戦略推進議員連盟・副会長 新藤義孝)

2013年 南鳥島EEZ「超高濃度レアアース泥」発見



太平洋に広く分布し、資源量が膨大



トリウム、ウランなどの放射性元素を含まない

➤ 中国鉱山では、トリウム、ウランなどの放射性元素の廃棄物処理が最大の問題

➤ レアアース泥は放射性元素の処理が不要な“クリーンな資源”

重レアアースとスカンジウムが同時に採れる唯一の資源

Y資源量(tREO)	1.2×10^6	国内需要(2015)の1,600年分
Sc資源量(tREO)	1.5×10^5	—

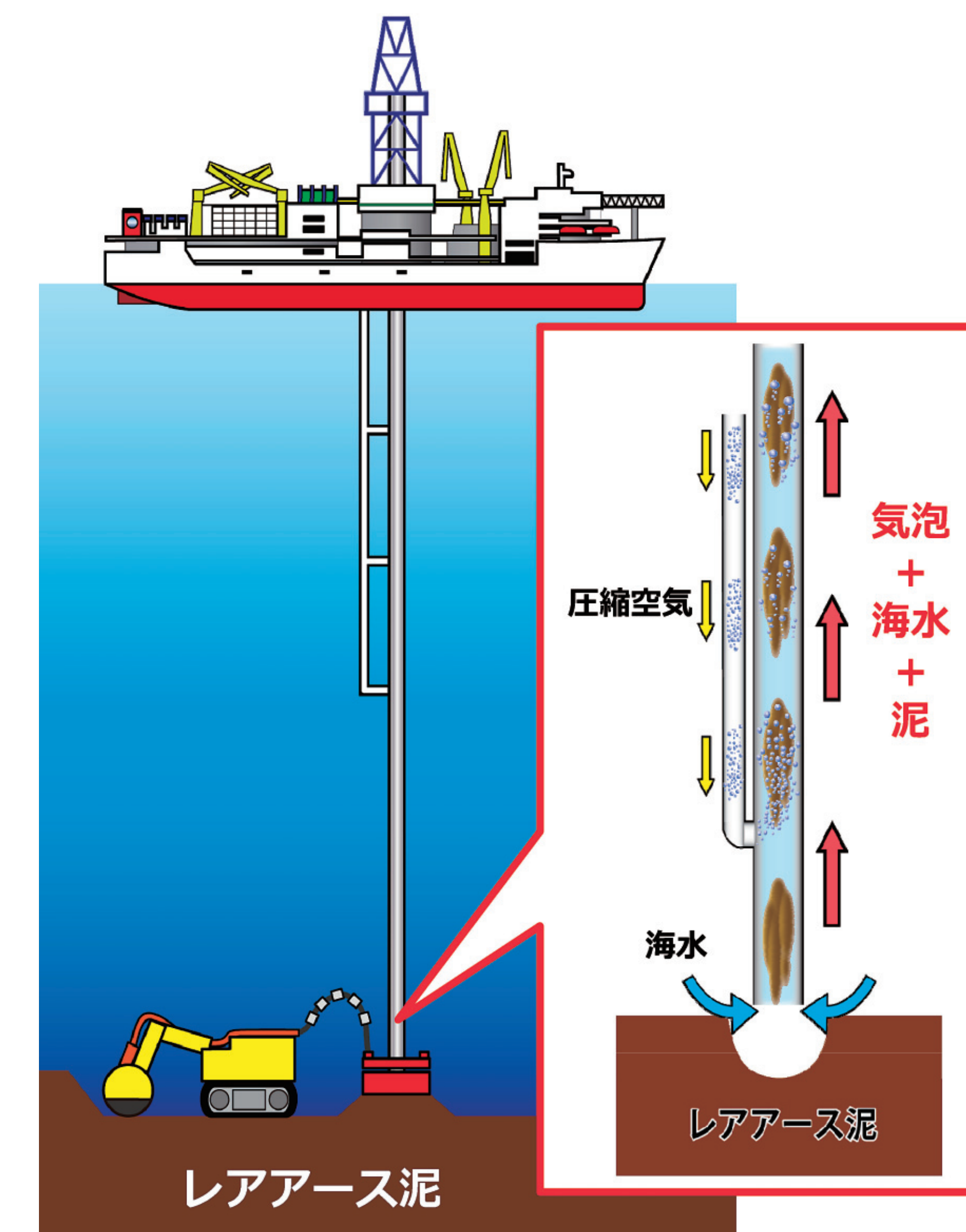
現在の世界需要の1万年分!!

世界初！海洋レアアース産LED照明

東京オリンピック・パラリンピックで世界にアピール



加圧式エアリフトシステムの開発



大水深加圧式エアリフトシステムの開発と、1000m試験、3000m試験、および6000m級実海域試験の実施

採泥、揚泥技術の開発

北極で活動する主な砕氷観測船

(北極のフロンティアについて考える議員連盟・幹事長 新藤義孝)

Healy (米)



Sikuliaq (米)



Louis S. St-Laurent (加)



Polarstern (独)



アラオン (韓)



雪龍 (中)



海洋地球研究船 みらい (日)



北極域砕氷船保有の必要性

- ポーラークラス：PC7(耐氷船)
- 砕氷機能は有していない。

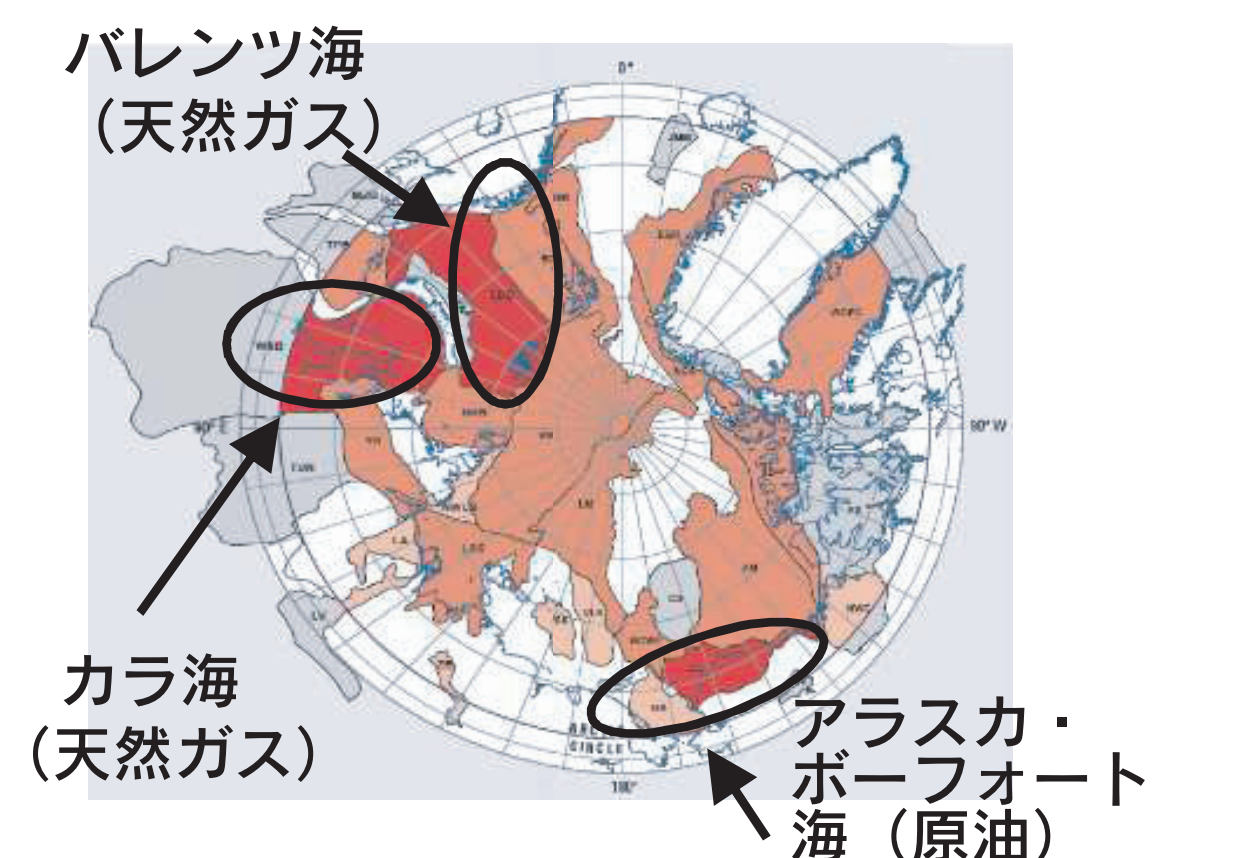
※ポーラークラス (PC) は、国際船級協会連合 (IACS) によって制定された海氷に対する安全性の指標。7段階の区分があり、PC1が最も安全性が高く、PC7が最も低い。

約6,500海里
Northern Sea Route

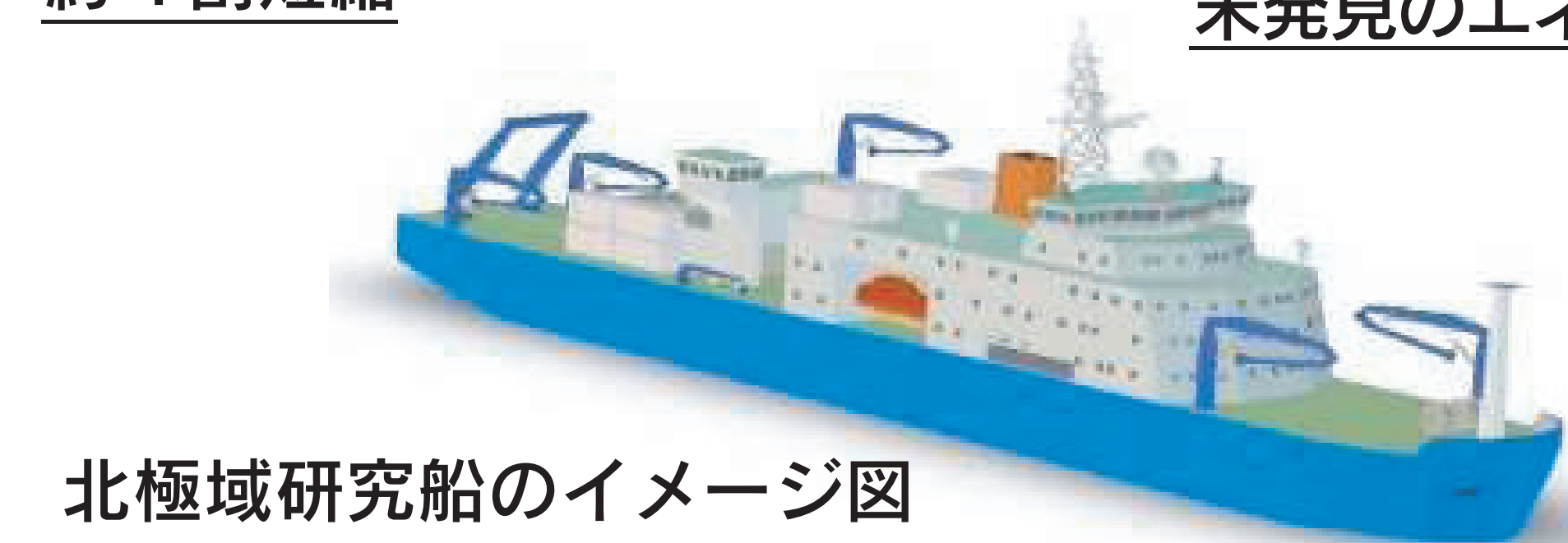


約11,200海里
Current route

日本から欧州までの航行距離が
約4割短縮



未発見のエネルギー資源が埋蔵



北極域研究船のイメージ図

写真：各機関ウェブサイトより

○現在中国は2隻目を建造中。韓国は2隻目を検討中。

平成29年11月27日 衆議院予算委員会 新藤義孝(自民党) パネル⑤縮小
出典：米、加、独、中、韓の各政府機関、アラスカ大学、文部科学省資料より — 新藤義孝作成 —